

2025年9月11日

報道関係者各位

<特別展のご案内>

めでたい美術

—絵画とやきものに見る幸せのかたち—

会期 2025年12月14日(日)～2026年6月7日(日)



岡田美術館(箱根町・小涌谷)では、2025年12月14日(日)～2026年6月7日(日)まで、特別展として「めでたい美術—絵画とやきものに見る幸せのかたち—」を開催いたします。私たちは、幸せを願い、延命長寿や子孫繁栄、家内安全といった様々な意味をモチーフに込め、美術作品に表してきました。それらのモチーフは、不老長寿の「仙人」、霊獣とされる「龍」、めでたい兆しとして姿を現すという「鳳凰」、千年生きると言われる「鶴」、ともに冬の寒さに耐えることから、「歳寒三友」と呼ばれ、やがて縁起物とされた「松竹梅」、花の王と呼ばれる富貴の象徴「牡丹」など、伝説上の生き物から身近な動植物まで多岐に渡ります。これらは、単独で表すだけではなく、いくつかを組み合わせることで複合的な意味を持ち、めでたさが一層強まります。本展では、おめでたいモチーフが愛らしく表現された絵画とやきものを一堂に展示いたします。見ただけで幸せになる美術の世界をお楽しみください。

見どころ1

松竹梅 —絵とやきものの競演—

松竹梅にみる絵とやきものの表現の違い

見どころ2

瑞鳥集合 —鳥が舞う理想の世界—

鳳凰や鶴などおめでたい鳥を描いた絵画をご紹介

見どころ3

ユーモラスな神さまの姿

寿老人、風神雷神など、厳かな神さまの愛嬌ある姿に注目

【特集展示】 金屏風 —馬とサムライ—

見どころ1

松竹梅 —絵とやきものの競演—
松竹梅にみる絵とやきものの表現の違い

松・竹・梅は、それぞれがおめでたい意味をもつモチーフです。それらを組み合わせた「松竹梅」は、厳しい冬を生き抜くことから、中国で「歳寒三友」と呼ばれ、高潔の象徴として好まれました。日本でも、室町時代より松竹梅の組み合わせが描かれるようになり、江戸時代以降慶賀のモチーフとして盛んに登場します。このコーナーでは、松竹梅が表された絵とやきものをご紹介します。

ひとつの枝から紅梅と白梅が咲く珍しい姿



①「紅白梅図屏風」江戸時代初期 17世紀前半

紅白の花を咲かせる梅の老木が、金地を背景に、今を盛りと咲き誇る。屏風の両端には、竹に通じる笹も描かれ、めでたさを際立たせている。梅の花に誘われ、小鳥たちも集まり、画面に賑わいをもたらす。



松竹梅に菊を加えて、
めでたさを強調

細い頸をもつ六角の徳利。
梅と柴垣、松と竹、菊と桔梗
を各面にそれぞれ描き、残
りの3面に七宝繫文を表す。
長寿の菊や縁起物の七宝
文を加え、めでたさを強調。

②「色絵松竹梅文徳利」京都
江戸時代 17世紀末～18世紀



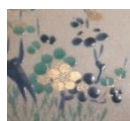
【松】

ときわぎ
常緑を保つことから、常盤木
とも呼ばれる長寿の木。



【竹】

天に向かい、真つすぐ伸び、
成長が早いことから生命力を
表す。



【梅】

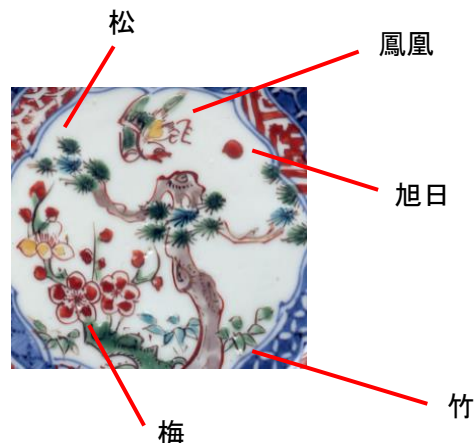
早春に他の花に先駆けて咲
き、春の訪れを告げる。



おめでたいモチーフで
満ちています

六弁の花形の皿の中央に
松竹梅を表し、その上に鳳
凰と旭日を加える。日本か
らの注文を受け、中国・明時
代末の景德鎮窯で作れた。

③「五彩松竹梅鳳凰文棧花皿」
景德鎮窯 中国・明時代 17世紀



見どころ2

瑞鳥集合 ―鳥が舞う理想の世界―

鳳凰や鶴などおめでたい鳥を描いた絵画をご紹介します

自由に空を飛べる鳥たちは、人間が到達できない神々の世界からの使者とされ、神聖なものと考えられてきました。太平の世を知らせる「鳥の王」鳳凰をはじめ、長寿の鳥とされる鶴や、^{せきれい}鶴鴒などの可愛らしい小鳥が描かれ、おめでたい松や牡丹といった植物も、その場を華やかに荘厳します。鳥が舞い飛び、花が咲く理想郷をご堪能ください。

平和の訪れを鳳凰が告げる



【鳳凰】古代中国で生み出された想像上の鳥。
五色の羽を備えると言う。

中央に古代中国の理想的な帝王・舜^{しゆん}、左右に舜の妻である娥皇^{がこう}（右）と女英^{じょえい}（左）を描く。舜の上を高く飛ぶ鳳凰は、優れた天子が世に現れる兆しとされることから、舜の善政と太平の世を象徴する。娥皇に竹、女英に梅も描かれている。

④狩野探幽「舜王・娥皇・女英図」 江戸時代 寛文5年(1665)

ふわふわとした鶴の羽の質感に注目



⑤木村武山「松に鶴図屏風」 昭和2年(1927)

広々とした金地の空間に3羽の鶴が向かい合う形で配置される。右隻には松が伸び、笹の生えた左隻では鶴たちのまわりを2羽のセグロセキレイが舞う。



【鶴】千年生きるとされる長寿の象徴。



【鶴鴒】夫婦和合の鳥として『日本書紀』に登場。



孔雀と牡丹は
定番の組み合わせ

海棠の木に止まる雄の孔雀が、下にいる雌に向かって羽を広げようとしている。孔雀は9つの徳を備える鳥とされ、富貴を象徴する牡丹と組み合わせて描かれることが多い。

⑥岡本秋暉「孔雀図」
江戸時代 安政3年(1856)

見どころ3

ユーモラスな神さまの姿

寿老人、風神雷神など、厳かな神さまの愛嬌ある姿に注目

人智を超えた存在である神や仏は、畏怖の対象とされる一方、その存在を身近に感じ、親しみのある姿で表されることがあります。このコーナーでは、霊獣で神としても祀られる龍から、現世利益を司る七福神の寿老人や布袋、自然の力を神格化した風神・雷神まで、神仏のユーモラスな姿をお楽しみください。

龍のくりっとした丸い目がチャームポイント



⑦「五彩龍鳳文合子」
景德鎮窯 中国・明時代
万暦年間(1573～1620)

龍と鳳凰を描き、周囲に宝珠や霊芝雲を配す。中国では元時代以降龍は皇帝、鳳凰は皇后の象徴とされ、宮廷用の製品に表された。

味わいのある
光琳の水墨画

口を開けて笑う寿老人を、墨の濃さや線の太さを自由に使い分けながら描く。尾形光琳(1658～1716)の水墨画の学習成果が認められる。



⑧尾形光琳「寿老人図」
江戸時代前期 18世紀初頭

寿老人はどこ？



【寿老人】七福神の1人で、長寿の象徴。鹿を伴うことが多く、ここでは団扇で顔を隠した寿老人が鹿にもたれている。

⑨中村芳中「扇面貼付屏風」 江戸時代中期～後期 18世紀後半～19世紀前半

右隻に水葵、水仙、芥子、椿、左隻に石楠花、雪の下、月夜山水、寿老人を描いた扇面を貼った屏風。扇は開いた形が末広がりでことから、縁起物とされた。

大壁画「風・刻」の貴重な小下図



⑩福井江太郎「風・刻」小下図 平成21年(2009)

岡田美術館の正面を飾る、縦12m、横30mの大壁画「風・刻」の小下図で、75×100cmの金地パネル2枚に描く。その後、1/10の下図を作り、アルミパネルの数に合わせて640分割し、アルミパネル1枚ずつに拡大しながら実際の壁画を描いていった。



福井江太郎氏

1969年東京都生まれ。多摩美術大学大学院で日本画を学ぶ。日本とニューヨークを拠点に活動する気鋭の日本画家。2006・2013年春の叙勲褒章にて紺綬褒章受章。

【特集展示】 金屏風 一馬とサムライ

2026年の午年に因む特集展示です。馬は、5世紀頃、中国大陆から朝鮮半島を経由して日本にもたらされて以降、権威の象徴や神事の動物として、あるいは競馬において、実用面では輸送手段や戦闘時の乗り物などとして、人と深く関わる重要な動物であり続けました。

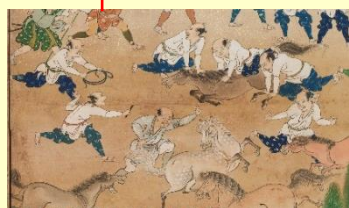
この特集では、『平家物語』や『太平記』、古式の競馬、祭礼や行幸を主題とした5件の金屏風を、馬と武士の営みに注目しながら展示します。

野馬追の屏風の逸品

福島県で現在も続く勇壮な祭礼が、奥州中村藩相馬家の行事であった頃の様子を伝える。

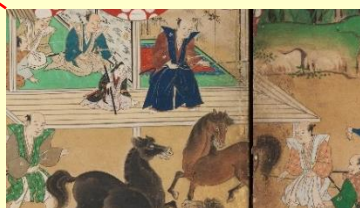


そうまのまおい
⑪「相馬野馬追図屏風」
江戸時代中期
18世紀



のまかけ
野馬懸(左隻第5扇)

神社に奉納するため野馬を捕える。けが人も出る危険な場面。



神社の境内(左隻第5扇)

藩主が、駒取り竿を持って立ち、馬の首に懸ける時を待っている。

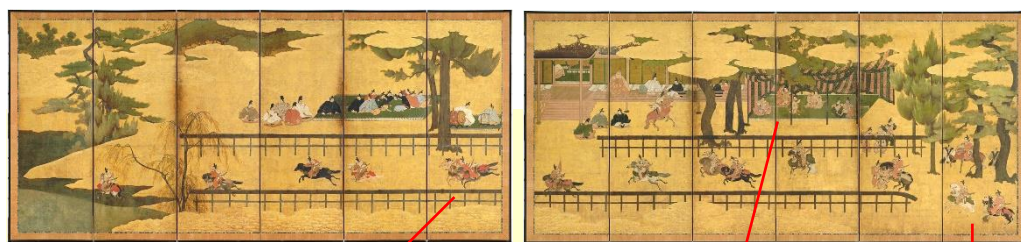


野馬追(右隻第3扇)

母衣を背につけた騎馬武者が、野に放たれた馬を追う。

昔の競馬はこうだった

直線コースを走る、古式の競馬を描いた屏風。2騎1組ずつが先着を競うところ、複数の勝負を描き、さまざまなレースの様子を表わす。



くらべうま
⑫「競馬図屏風」
桃山～江戸時代初期
17世紀



相手の様をつかむ(左隻第1扇)

現在では反則かと思われる進行妨害も許されていた。



あくしや
帷舎で競う騎手たち(右隻第3・4扇)

衛府(御所とその周辺などを警護した役人)の騎士と考えられる。



入場の場面(右隻第1扇)

右の騎手は地位が高いのか、馬のたてがみを飾り、従者が付く。

【開催要項】

展覧会名 愛でたい美術 -絵画とやきものに見る幸せのかたち-

会期 2025年12月14日(日)～2026年6月7日(日)

休館日 2025年12月31日(水)、2026年1月1日(木)

主催 岡田美術館

所在地 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷493-1

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

入館料 一般・大学生2,800円(2,550円)

小中高生1,800円

※()内は前売り料金。

会期中イベント

関連講座『やきものに見るおめでたいモチーフ』

3月28日(土)13:00～14:30

講師:塩谷 尚子(岡田美術館 学芸員)

関連スライドトーク『愛でたい美術 -絵の見どころ・考えどころ-』

2月21日(土)13:00～14:00

講師:小林 優子(岡田美術館 学芸員)

学芸員ギャラリートーク 特別展「愛でたい美術」

2025年12月26日～2026年5月29日 毎週金曜日11:00～

特別展の内容は予告なく変更する場合がございます

※参加費無料(要入館料)／申込不要



⑮箱根の自然をスケッチ 大人のアート入門

箱根の自然をスケッチ 大人のアート入門

片岡永俐那先生をお迎えして行う「箱根の自然をスケッチ 大人のアート入門」は、初心者でも気軽にご参加いただける絵画教室です。昭和初期の日本家屋を改装した美術館敷地内の飲食施設・開化亭から、色づく庭園の景色を色鉛筆で描いていただきます。

●日 時 : 11月9日(日) 13:00～16:00頃まで

●場 所 : 岡田美術館 開化亭

●参 加 費 : 7,000円(税込)

●申込方法 : 0460-87-3931 / info@okada-museum.com

※色鉛筆、画用紙等の画材はすべて岡田美術館にて用意

※参加費には、画材、終了後の開化亭喫茶代、美術館入館券(当日のみ)含む

※美術館入館券なしの場合は6,000円(税込)

※事前申し込み制

かたおか えりな
【片岡 永俐那】画家/アーティスト

静岡県油彩美術家協会常任委員・三島市社会教育絵画講師



美術館で紅葉さんぽ ～展示室と庭園散策ツアー～

秋限定の美術館ツアーを開催します。学芸員による秋や紅葉をテーマにした作品解説ののち、庭園に移動し、担当スタッフが美術館内の紅葉スポットをご案内いたします。名品と一緒に秋の庭園をお楽しみください。

●期間 : 11月5日～11月26日 毎週水曜日13:30～14:15頃まで

●場所 : 岡田美術館展示室、敷地内の庭園

●料金 : 無料(要入館料)

【岡田美術館について】

岡田美術館は2013年10月、箱根・小涌谷に開館しました。全5階、展示面積約5,000㎡という屋内展示面積としては箱根随一を誇る広大な館内に、日本・東洋の陶磁器や絵画などの美術品を常時約450点展示しています。

日本で受け継がれてきた美術品を大切に守り、美と出会う楽しさを分かち合い、次代に伝え遺したい、との願いから、美術館が構想されました。美術館の正面を飾るのは、現代日本画家・福井江太郎氏によって描かれた縦12m、横30mに及ぶ風神・雷神の大壁画「風・刻^{かぜ・とき}」(2013年)です。他にも深見陶治氏、諸井謙司氏、樂雅臣氏など、現代作家の作品が屋内外に展示され、来館者をお迎えします。その他付帯施設もお楽しみください。



大壁画

琳派の祖ともいえる俵屋宗達「風神雷神図屏風」をもとに、天駆ける箱根の守り神として、福井江太郎氏が現代に甦らせました。構想から完成まで約5年の歳月をかけて制作した大壁画「風・刻」が、皆様をお迎えいたします。

⑱美術館外観



開化亭

昭和初期の日本家屋を改装した風流な飲食施設「開化亭」は、明治半ばにこの地にあった外国人向けホテルにちなんで名づけられました。自然の恵みを感じる庭園を眺めながら、「季節の魚天うどん」などのお食事や喫茶をお楽しみいただけます。

⑳開化亭



足湯カフェ

風神・雷神の大壁画を前にした100%源泉かけ流しの足湯カフェでは、人気の「プレミアム和パフェ」やソフトクリームなどのスイーツ、各種お飲み物を用意しています。また季節湯や期間限定メニューなど四季折々のイベントも行っておりますので、ぜひお立ち寄りください。

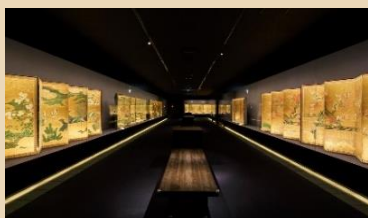
㉑足湯カフェ



ミュージアムショップ

2023年よりコラボレーションをスタートしたピエール・エルメ・パリとの限定チョコレートは、当館ミュージアムショップのみの販売です。美術館のシンボルマークをあしらったショコラなど、7種類の組み合わせをお楽しみいただけます。

㉒アソリュティマンド ショコラ ミュゼ オカダ 7個入 3,800円(税込)



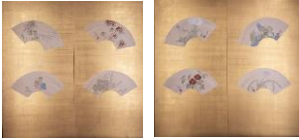
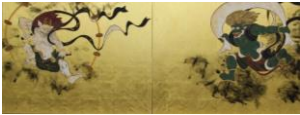
【1日1組限定】閉館後貸切プラン

閉館後の岡田美術館を貸切にできる、1日1組限定のプレミアムなプランをご用意しております。学芸員の解説付きで展示室をご鑑賞いただけるほか、「開化亭」の奥座敷を貸切にできる無料オプションもございます。

詳細は岡田美術館までお問い合わせください。

【注意事項】

- * 本特別展の紹介に限り使用し、二次使用や改変（部分使用含む）はご遠慮ください。
- * 使用后 2 週間以内に、貸与したデータをすべて消去してください。
- * 表記一覧に記載した掲載キャプション（作品名、作者名、制作年、岡田美術館蔵ほか）をすべてご記載ください。
- * web 掲載時は「画像写真の無断転載禁止」の旨をご記載ください。
- * 校正原稿を広報担当者までお送りください。※校正期間は中 3 営業日

			
①紅白梅図屏風	②色絵松竹梅文德利	③五彩松竹梅鳳凰文稜花皿	④舜王・娥皇・女英図
			
⑤松に鶴図屏風	⑥孔雀図	⑦五彩龍鳳文合子	⑧寿老人図
			
⑨扇面貼付屏風	⑩「風・刻」小下図	⑪相馬野馬追図屏風	⑫競馬図屏風
			
⑬富士図屏風	⑭雑祭図	⑮染付菊文皿	⑯色絵破魔弓熨斗文皿
			
⑰色絵雲菊寿字文向付			

※⑩～⑫は本プレスリリース内の貸出画像をご確認ください。

プレスリリースをご参照の上、ご希望の写真 No. に✓印を付けてください。

✓	No.	掲載時のキャプション
	1	「紅白梅図屏風」(部分) 江戸時代初期 17 世紀前半 岡田美術館蔵
	2	「色絵松竹梅文徳利」京都 江戸時代 17 世紀末～18 世紀 岡田美術館蔵
	3	「五彩松竹梅鳳凰文棊花皿」景德鎮窯 中国・明時代 17 世紀 岡田美術館蔵
	4	狩野探幽「舜王・娥皇・女英図」(部分) 江戸時代 寛文 5 年 (1665) 岡田美術館蔵
	5	木村武山「松に鶴図屏風」(部分) 昭和 2 年 (1927) 岡田美術館蔵
	6	岡本秋暉「孔雀図」(部分) 江戸時代 安政 3 年 (1856) 岡田美術館蔵
	7	「五彩龍鳳文合子」景德鎮窯 中国・明時代 万暦年間 (1573～1620) 岡田美術館蔵
	8	尾形光琳「寿老人図」(部分) 江戸時代前期 18 世紀初頭 岡田美術館蔵
	9	中村芳中「扇面貼付屏風」(部分) 江戸時代中期～後期 18 世紀後半～19 世紀前半 岡田美術館蔵
	10	福井江太郎「風・刻」小下図 (部分) 平成 21 年 (2009) 個人蔵
	11	「相馬野馬追図屏風」(部分) 江戸時代中期 18 世紀 岡田美術館蔵
	12	「競馬図屏風」(部分) 桃山～江戸時代初期 17 世紀 岡田美術館蔵
	13	鈴木守一「富士図屏風」(部分) 江戸時代末期～明治時代初期 19 世紀後半 岡田美術館蔵
	14	柴田是真「雛祭図」(部分) 江戸時代末期～明治時代初期 19 世紀 岡田美術館蔵
	15	「染付菊文皿」鍋島藩窯 江戸時代 17 世紀後半～18 世紀前半 岡田美術館蔵
	16	「色絵破魔弓熨斗文皿」有田 江戸時代 17 世紀末～18 世紀初頭 岡田美術館蔵
	17	尾形乾山「色絵雲菊寿字文向付」江戸時代 18 世紀 岡田美術館蔵
	18	箱根の自然をスケッチ 大人のアート入門
	19	美術館外観
	20	開化亭
	21	足湯カフェ
	22	アソリュティマン ド ショコラ ミュゼ オカダ 7 個入

申し込みフォーム *フォームへの記入、もしくはお名刺の添付をお願いいたします。

貴社名			
媒体名			
ご担当者様名		TEL	
部署名		FAX	
E-mail			
ご住所	〒 ー		
放送・掲載内容			
放送・掲載予定日	年 月 日	放映エリア／発行部数	
弊社社内ネットワークへの 記事 PDF の掲載可否	可 / 否	その他、掲載条件	